

局地的な大雨に対する下水道管きょ内作業の安全管理計画チェックリスト

計画書への記載項目	チェック(請負人)	チェック(担当監督員)
1. 現場特性の事前把握		
(1) 下水道施設情報の把握		
・流域範囲、流入系統、マンホール深さ、管きょ勾配、マンホールでの上下管きょの落差、材質(滑りやすさ)		
(2) 地形情報の把握(雨水の集まりやすさの観点から、凹地形、急傾斜地に関する情報)		
(3) 平常時の水位・流速、降雨時の状況に関する情報の把握		
2. 作業等の中止基準・再開基準の設定		
(1) 気象に関する情報の収集		
・気象情報の収集方法		
・気象情報の概要、方法、範囲等		
(2) 現場特性に応じた工事等の中止・中断基準の設定		
(3) 現場特性に応じた工事等の再開基準の設定		
3. 迅速に退避するための対応		
(1) 作業条件などの周知徹底		
・「急激に水量が増加するおそれのある場所」であることを関係者に周知		
・非常時における作業員への退避連絡方法の確認		
確認・実施事項		
(2) 退避手順の設定		
・退避経路及び退避手順の設定		
・避難訓練等の計画の策定及び実施		
(3) 安全器具などの設置		
・地上からの退避指示が管きょ内で把握できる ブザー付き回転灯の設置及び点検・整備		
・救命用具(救命胴衣、救命浮輪、ロープ等)の準備		
・安全施設(流出防止柵等)の設置		
・退避施設(はしご等)の設置		
(4) 情報収集と伝達方法		
・下水道管きょ内で作業する場合は、 地上監視員を配置し、管きょ内に緊急退避の連絡ができる体制を常に確保		
・監視員等の配置及び教育(局地的大雨時の危険性、情報の連絡伝達方法、情報伝達機器の使用方法等)		
・下水道施設内の作業員への情報伝達方法の確認(ブザー付き回転灯の配備は必須 、無線機、トランシーバー、拡声器、サイレン等)		
・当局への連絡体制の確認(作業の中止、中断、再開)		
(5) 資器材の取扱い		
・「退避時には人命を最優先し、資器材存置」を現場に周知		
4. 日常の安全管理の徹底		
(1) 毎日のKYミーティング等により作業関係者全員に対して、当日の気象情報の伝達、退避方法を周知		
(2) 講習・訓練などの実施		
・気象に関する教育や講習などの実施		
・安全器具等の使用方法に関する教育や講習などの実施		
・退避時などの合図、信号の周知		
(3) 作業実施時の留意事項		
・作業等の進捗に応じた連絡体制・退避体制の見直しを行うこと。		
・気象状況に応じて作業を中止すること。		

※「大気の状態が不安定で雷の発生するところがある」といった予報が発表されている場合や「雷鳴が聞こえたり雷光が見えたりする、急に暗くなる、冷たい風が吹き出す、大粒の雨やひょうが降り出す」などの積乱雲が近づく兆しある場合には、急に強い雨が降り出す可能性があることに留意する必要がある。